

さんま通信

厚生中央病院 だより 第84号 

厚生中央病院の理念

1. 私たちは、心の通った温もりを感じる医療を目指します。
2. 私たちは、組合被保険者ならびに地域の人々の健康と福祉に貢献します。
3. 私たちは、病院機能の充実を図り、サービス向上のため日々研鑽します。



目次

- 地域連携室のご紹介 1
- HCUへの思い 2
- HCU開設に向けて 2
- HCUのご紹介 3
- HCUにおける臨床工学技士 3
- 緩和ケアのはなし 4

地域連携室のご紹介

地域連携室 係長 関根 康春

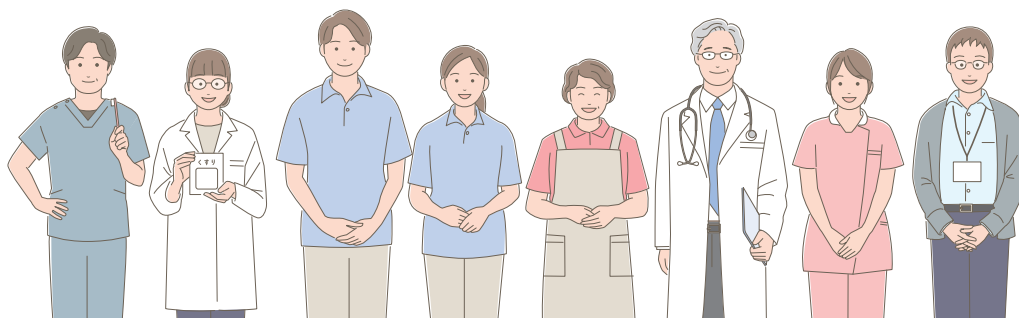
地域連携室では、地域医療を支える先生方や医療従事者皆さまのお困り事に素早く対応し、断らない連携を実践するため、顔の見える連携の強化に努め登録連携医・連携施設の方々のみならず、多くの医療に関する皆さまのニーズに幅広く応えられるよう日々の業務に従事しております。

急性期機能を持つ多機能型病院として多様な患者さまを受入れ、専門的な治療が必要であれば速やかに高度医療機関へとつなぎ、長年にわたり本院が大切にしてきた「高齢者を大切にする医療」を継続し、多職種が協力し病院がひとつになるため、前方連携では、地域の先生方との直接のやりとりや、受診予約の確保、緊急時の転院先の検索、紹介状の処理等を行っております。

後方連携においては看護師と医療ソーシャルワーカーで構成され、入院支援として他院から一般急性期病棟及び地域包括ケア病棟への受け入れの調整等、退院支援では各病棟からの依頼に対して回復期リハビリテーション病院、療養型病院への転院調整や在宅復帰に向けた施設選定等の調整を担っております。

スタッフ一同、地域の皆さまからのご依頼に対し、適切な連携を通じて可能な限りお応えできるよう努めております。

皆さまのお手伝いや連携登録等ございましたら、ご連絡いただければ幸いです。





HCUを開設しました！



HCUへの思い

副院長・脳神経外科部長 秋元 治朗

かのジョン・F・ケネディがNASAを訪れた際、箒を持って掃除をしている青年に出会った。「君は何をしているのか？」と聞くと、「人類が宇宙に行くというミッションを手伝っています」と答えたという。医療安全とは診療に携わっている各分野の専門家が力を合わせて達成する一つのミッションだと考えており、多職種が自らの叡智を持ち寄って、患者に安全かつ最善のゴールをもたらすことで達成される。

当院にHCU (High Care Unit) が設置された。脳卒中術後、急性心筋梗塞、急性心不全、多発外傷、ハイリスク手術後などの患者を如何に守るかがHCUのミッションである。私の担当する脳神経外科領域で言えば、クモ膜下出血、重症脳梗塞、重症頭部外傷など、高度の意識障害を伴う疾病を如何に救い、元の生活レベルに近づけられるかが、ミッションの根幹となる。人工呼吸器管理、気管切開、ドレーン管理、中心静脈栄養、輸血など、高度医療を如何に安全に提供できるか。麻酔科をはじめ、各領域の専門医らの助言が必要なのである。そう、HCUとは各分野のプロフェッショナルが自らの専門知識を持ち寄り、一人の患者を救うためにチームで臨む“現場”とすることができるであろう。

NASAの青年が述べた様に、ここに集う医療者集団は常に同じゴールを見据え、お互いを敬いながらミッションの達成を目指して行くものと思われる。

HCU開設に向けて

麻酔科部長 長澤 実佳

当院は年間3,000件の手術件数を目指す、急性期病院です。

手術件数の増加とともに、ハイリスクの患者は増加し、また高齢化社会に伴い併存疾患のある患者様も増加しています。HCUの開設により、より安全に周術期管理を行えることに期待しています。

その他循環不全、呼吸不全等の患者管理をHCUで行うことにより、当病院の地域中核病院としての機能を向上させ、評価される病院としてさらに発展していくことができれば良いと考えています。

医師・看護師・臨床工学士・各種医療従事者とチーム医療を行うことでより良い高度な管理が可能になるよう、麻酔科としてもできる限り協力していくことでより良い医療が提供できる病院を目指していきたいと思っております。

HCUのご紹介

6南病棟師長 出水 訓寿

当院では、急性期治療を要する患者に対し、より安全で質の高い医療・看護を提供することを目的として、HCU（ハイケアユニット）を令和8年4月から運用を開始します。HCUは、一般病棟と集中治療室（ICU）の中間的な機能を持ち、全身状態が不安定で継続的な観察や集中的な治療が必要な患者を対象とする病床です。

当院のHCUは、脳血管障害や開頭手術後の脳神経外科患者をメインに、呼吸不全や循環不全など、全身状態および神経学的変化を集中的に管理する必要のある患者を主な対象としています。継続的な意識レベルの評価やバイタルサインの厳密な観察を行ない、異常の早期発見や迅速な対応を可能とする体制を整えています。

医師・看護師をはじめとする多職種が密に連携し、重症化の予防と機能回復の促進を図ることで、急性期から回復期への円滑な移行を実践していきたいと思えます。今後も安全管理を徹底し、急性期医療の質向上と地域医療への貢献を目指して参ります。



HCUにおける臨床工学技士

臨床工学室 技師長 磯部 英輔

HCUは、一般病床ではケアが難しい患者さんや外科手術後の集中管理が必要な患者さんを受け入れており、多くの生命維持管理装置による治療が行われています。たとえば、呼吸不全に対する人工呼吸器の装着です。私たちは、装置のセッティングや機器が設定値どおりに動作し適切に使用しているか確認を行っております。その他にも、敗血症や急性腎不全に対する血液透析（HD）、持続緩徐式血液濾過療法（CRRT）の実施や劇症肝炎、血栓性血小板減少症に対する単純血漿交換（PE）、その他にもエンドトキシン吸着療法（PMX）、血漿吸着療法（PA）などあらゆる血液浄化療法に対応しております。

今後は、循環不全や重症呼吸不全に使用するIABP、ECMOなど補助循環装置も管理できる体制にしたいと考えております。以上のことから私たちは、様々な生命維持管理装置を操作・管理・保守点検を行い、安全な医療を提供する医療機器のスペシャリストを目指しております。

運用開始したばかりのHCUですが、医師・看護師や各種医療従事者と互いの専門性を尊重し、チームを結成して診療にあたり、患者さんにより良い医療を提供しています。

— 当院の緩和ケアサポートチームのご紹介 —

厚生中央病院 緩和ケアサポートチーム がん性疼痛看護認定看護師 山崎 順子

厚生中央病院では2018年9月から、緩和ケアサポートチームの活動を開始しました。チーム活動の必要条件となる医師2名、薬剤師、管理栄養士とともに、入院患者様の症状緩和や、療養上の相談などを行っています。

当院は急性期の一般病院で、緩和ケアの病床はありませんが、緩和ケアを専門とした多職種チームが、院内で相談を受けて、主科と併診することで、専門的緩和ケアを提供しています。

チーム活動を開始した当初は、これまで院内には存在しなかった緩和ケアを、どのように位置づけていけばいいのか、院内のスタッフが緩和ケアについて理解して、相談しやすい関係を築くにはどうすればいいのか、迷いながら奔走しました。当時はまだ、過去の緩和ケアが持つ終末期医療のイメージが強く、緩和ケアの話聞き入れること自体に否定的な医療者も多かったため、患者様とご家族に、緩和ケアを提供できるまでの過程には、多くの困難がありました。

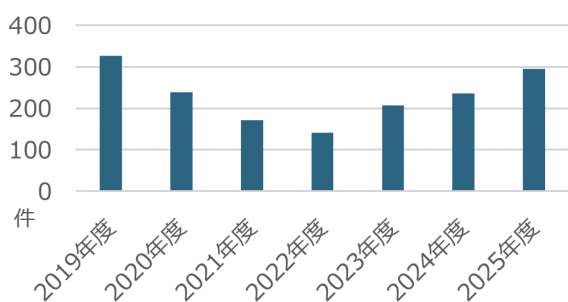
各科のカンファレンスに参加して意見交換したり、院内マニュアルやパンフレットを作成したり、勉強会やイベントを開催したりして、チームの存在と活動が周知されるようになり、相談件数は年々増え続けています。下のグラフは、チーム診療件数の推移ですが、COVID-19流行時期に一時的に減少したものの、以降は徐々に増加しています。つらい状況の患者様とご家族がいれば、疾患や病状を問わず、チームで連携して迅速な対応を心がけてきたことで、数字的な増加だけでなく、緩和ケアの専門性について、院内での理解が得られるようになっていると変化も実感しています。

日々の診療と看護に、緩和ケアのエッセンスを加えて、患者様とご家族の療養経過が、よりよい経過となるように、サポートを続けていきたいと思えます。

当院で診療を受けている患者様、ご家族からのご相談、近隣でご活躍される医療従事者、介護者様からのご相談もお受けいたします。



当院の緩和ケア診療加算件数



WHOによる緩和ケアの定義(2002年)

緩和ケアは、生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族のQOLを、痛みやその他の身体的、心理社会的・スピリチュアル的な問題を早期に見出し、的確に評価を行い対応することで苦痛を予防し、和らげることを通して向上させるアプローチである



救急指定病院

厚生中央病院 **さんま通信**

No.84 2026

発行元：総合病院 厚生中央病院 経営企画広報室

〒153-8581 東京都目黒区三田1-11-7
TEL：03-3713-2141 FAX：03-3713-4963
URL <https://www.kohseichuo.jp>

看護師等、随時募集しております。詳しくは当院ホームページをご覧ください。